

シンポジウム 16 企画概要

タイトル	つなげる・つづける食支援 ～食支援の地域展開方法を模索する～
------	-----------------------------------

テーマ

単施設や単チーム内での完結ではなく、地域の中で食支援をいかに展開するか、という観点での各地域の実情、現状と実践内容を披露してもらう。

概要

摂食嚥下障害を有する方への食支援は、近年注目を集めている。2013年7月には横浜で「口から食べる幸せを守る会（KTSM）」の第1回全国大会が開催され、食支援、経口摂取を続けることが当たり前になる地域が増えるような取り組みが全国展開をはじめた。

各地域には摂食嚥下や栄養支援に力を入れている、拠点となる病院、施設、在宅チームなどは少ないながらも存在し、増えてきているのも事実であろう。しかし、病院内で食支援を積極的に行っても、在宅や介護保険施設へ退院後、制度の問題や、人材不足の問題、情報共有方法、栄養に関する考え方の違いなどに阻害され、有効な食支援を続けることができないことが多いのが実情である。逆に、施設や在宅療養中には有効な食支援を受けていたものの、入院すると、積極的な食支援を受けられないままに安易に経口摂取が断念され、経管栄養や看取り、などとなることもあるのも実情である。

病院間や施設間の機能分化が進み、また、在宅医療が広まるなか、食支援、摂食嚥下に関するアプローチは病院内、施設内で完結するものではなく、継続的に対応することが求められているが、さまざまな障壁があり難しい。このシンポジウムでは、地域の中で摂食嚥下、食支援をどのように継続するか、という観点で議論を展開する。

医師、栄養士、歯科医師、歯科衛生士と違った職種の方にシンポジストとしてお願いした。それぞれの立場での活動を紹介していただく。シンポジストは職種だけでなく、地域特性や人口密度も異なるところで活動しており、また、活動している施設形態も異なる。それぞれの活動は、参加者が各地域での食支援を地域の中で継続するにあたって、参考になるであろう。